

赤谷の 森だより

Akaya no moridayori



赤谷プロジェクト地域協議会
財団法人日本自然保護協会
赤谷森林環境保全ふれあいセンター

特集 赤谷の森写真館 ②③

赤谷の森でわかったこと「自然の森の姿」…… 4-6
赤谷プロジェクト活動日誌、イベント情報…… 7

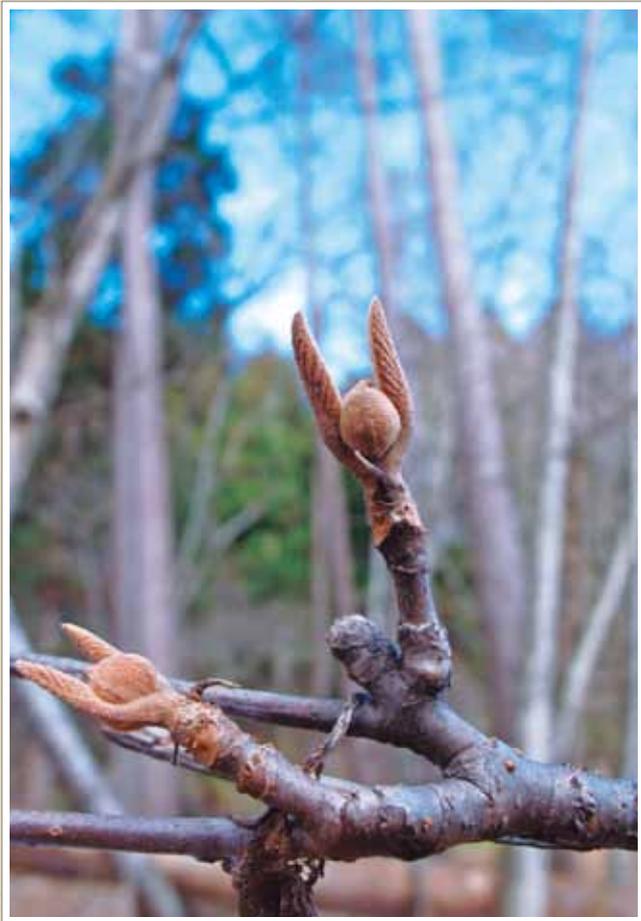
赤谷プロジェクトに望むこと 江戸家猫八さん
活動報告 赤谷の森で落ち葉掃き…… 8



冬山は 野生の世界。

赤谷の森 写真館

「赤谷の森写真館」では、赤谷プロジェクト関係者が撮影した「赤谷の森」のいきもの、風景などの写真を季節ごとに紹介しています。



← オオカメノキの冬芽

撮影：大野正人

撮影者コメント

「コノヤロー !!」「勘弁してくれ～」と、両手で手を上げているように見えませんか。冬芽は樹種によって表情さまざま。南ヶ谷湿地で見つけたオオカメノキの冬芽は、春の訪れをこんな会話をしながら待っています。



↑ ウサギの足跡

撮影：小鮎 守

撮影者コメント

「赤谷の日」で行われたアニマルトラッキング（野生動物の痕跡探し）で撮影した、ノウサギの足跡です。この日はたくさんの雪が降り、赤谷の森も銀世界。ときおり粉雪が、ダイヤモンドダストのようにきらきらと舞っていました。とても寒いけれど、気持ちのよい朝でした。



← 豪雪のいきもの村

撮影：茅野恒秀

撮影者コメント

多い年には 1m 近くの雪が積もるいきもの村（さかいの ねえ はた境野苗畑事業所跡）。写真の小屋を「たくみたくみ小屋」と名づけています。ここで炭俵やスゲ笠編み、縄ないなど、たくみ地元に残る匠の技を学びたいと願っています。

赤谷川上流 ➡

撮影：星野理恵子

撮影者コメント

厳冬期は積雪量も多いため、スノーシューなどを履かないと腰まで埋まることもあります。天候も急変することがあるため、気象情報を確認し、好天を狙って出かけました。人気のない林道には、雪の上にテンやウサギ、リスなどの足跡があちこちに見られます。



↑ 雪上の観察

撮影：平井希一

撮影者コメント

冬の林道を、テンのモニタリング調査&アニマルトラッキング。たとえばテンの足跡から、“ここでジャンプして林道を横切った！”など、森の幅広いエリアを移動する動物のイメージが推理できて、おもしろいですよ。いろいろな小さな虫も、背景が白いこの季節だからこそ発見できます。



↑ センサーカメラ設置

撮影：茅野恒秀

撮影者コメント

野生動物の生活を知るために、自動撮影のカメラ（センサーカメラ）を森に設置しています。このカメラで撮影した結果からは、動物の種類だけでなく、たとえば夏は茶かっ色のノウサギが白い冬毛に変わるタイミングなどもわかります。赤谷の森には1年中茶かっ色のノウサギがいることもわかり、とても興味深いのです。

赤谷の森でわかったこと

自然の森の姿



自然環境モニタリング会議座長
東京農工大学名誉教授

亀山 章

森、動物、ヒト…それぞれが、どのように、
関わり合ってきたのか。

それを知るために、動物の動きや木々の種子などを
モニタリングという方法で調べ、

「赤谷の森の」、本来の姿を探っています。



森の可能性を知って、 計画を立てる

赤谷の森には、実にさまざまな生きものが棲んでいます。彼らもわたしたちヒトも、食べ物を食べて、子供を作り、死んでゆくという点では、なにも変わりはありません。

ただひとつ異なる点があるとすれば、ヒトはそれを計画的に行う、ということでしょう。そして計画に欠かせないのは、実現できるかどうかという可能性を考慮すること。わたしたちは記憶や経験をもとに考え、可能性にもとづいて計画し、行動する動物なのです。その可能性を科学的に知ることが必要と、赤谷プロジェクトでは自然環境のモニタリングを行っています。

モニタリングとはどんな森林が、どのような動物に生きる可能性を与えるかを調査するものです。たとえば動物の動きを調査するために、センサーカメラを設置したり、また、ミスナラやブナなどの種子(たね)の豊凶(豊作と凶作)を毎年調査し、自然の森林の再生に役立てようとしています。

森林再生のための、 「潜在自然植生」という考え方

森林を再生しようとする場合、「潜在自然植生」という考え方が大切になります。

潜在とは可能性のことで、「自然植生」とは人間の影響を受けず、その土地の環境のもとで自然にできる植生をいいます。ですので、直訳すると「自然植生の現在の可能性」となります。

一方、植林など自然な植生がヒトの手によって置き換えられた林のことを、「代償植生」といいます。この代償植生に加えられる、ヒトの行為を取り去ったとき、その土地にできると思われる姿が、潜在自然植生です。

潜在自然植生は、ドイツのチュクセン



写真1 ミズナラの自然林

次の写真で、具体的に説明しましょう。
写真1は、旧三国街道にある「三坂の茶屋跡」近くのミズナラの自然林です。

調べるのは、 植物の種類と土壌の断面

という植物学者による考え方で、彼はそれを地図にし、自然再生の可能性を知ろうとしました。
 潜在自然植生を推定するためには、代償植生に現れる植物の種類や土壌の断面構造を比較して、似たような自然植生を見いだすという方法がとられます。



写真2 カラマツ植林

写真2は、この自然林の隣にある、カラマツの林。ヒトによって、植林されたものです。
 この2つの森林のようすは、まったく違いますね。でもそれぞれの森林に出てくる植物の種類を調べると、ほとんど同じなのです。土の断面も調べても、同じです。
 カラマツの林から、植林という「ヒトの行為」を取り除いて考えると、この林がミズナラの自然林になる可能性を持っていることがわかります。
 これを、「この潜在自然植生はミズナラ林である」と言います。



写真3 成績が悪いカラマツ植林

「潜在自然植生がミズナラでない林」とは？
写真3は、このカラマツ林から少し離れた斜面にある、別のカラマツ植林です。写真2とくらべると、カラマツの成長がよくなく、成績の悪い林です。
 森林に出てくる植物の種類を調べてもかなり異なりますし、土も表面が流れてしまっています。
 ここは、かつてはミズナラ林だったものの、長い間、炭用に伐採されてきたため、土壌が貧しくなってしまった林です。すでにミズナラの林になる可能性は持たない。

ていないので、「潜在自然植生はミスナラではない」と判断されます。

自然を見守る、 モニタリング調査

このように、自然環境の基盤となるのは植生であるため、赤谷プロジェクトはプロジェクトエリア全体の自然植生の調査を進め、メンバーの長島成和氏しげかずによっ

て、潜在自然植生図が作成されました。(左図・「潜在自然植生図」)

わが国では、昭和30年代ころから、民有林も含めたほぼすべての森林で土壌調査が行われ、土壌図が作られて、スギやヒノキの適地を選んで造林されてきました。長島氏はその当時から調査に関わった専門家で、潜在自然植生の推定には欠くことのできない貴重な方です。

また、自然林の可能性を知るためには、

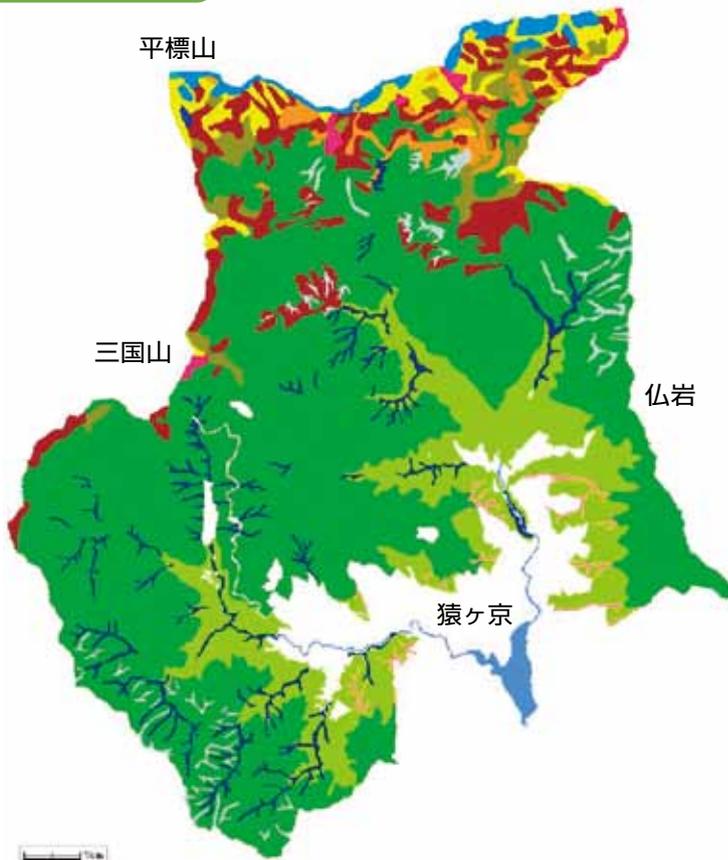
自然林に出てくる植物の種子が供給される可能性を知ることも大切です。

種子の豊凶調査はそのひとつであり、自然林からの距離によって、種子の数がどう異なるかという調査も行われています。ウワミズザクラやキイチゴ類の種子は、クマに食べられて運ばれることも知られています。

自然林の生態系が成立するためには、動物と植物の関係や、動物の食う・食われるの関係も大切です。

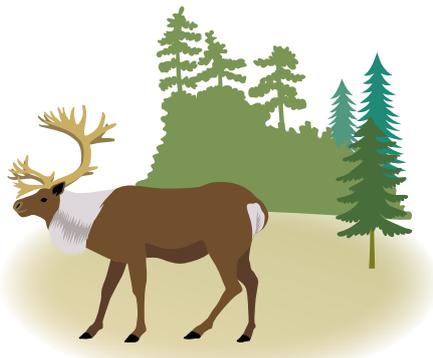
しかしこれらの多くは、自然にまかされていることであり、それを見守るのもモニタリングの役割なのです。

潜在自然植生図



潜在自然植生

- ヒメアオキーブナ群集・マルバマンサクーブナ群集
- コハクウンボクーイヌブナ群集・クリーコナラ群集・モミ群落
- ジュウモンジシダーサワグルミ群集
- アカミノイヌツゲークロベ群集
- ヤマツツジーアカマツ群集
- シラビソーオオシラビソ群集 (広域不発達)
- チシマザサーダケカンバ群落
- コケモモーハイマツ群集
- ウラジロヨウラクーコシノハナヒリノキ群集・ササ草原
- 高山植物群落
- 雪田草原群落
- ミヤマナラ群集 (多雪地広葉樹低木林)
- 荒地植生群落





赤谷プロジェクトの活動

10月～1月

赤谷プロジェクト 活動日誌

活動日	活動内容(活動場所)
10月 1~3日	いきものばんざいツアー (赤谷の森)
10月 5日	沼田北小学校5年生環境教育 (高原千葉村)
10月 7日	C O P 1 0 現地検討会 (旧猿ヶ京小学校ほか)
10月11日	いきもの村探検ツアー (いきもの村)
10月12日	みなかみ町長表敬訪問 (みなかみ町役場)
10月13日	国際協力機構 (JICA) 研修 (いきもの村ほか)
10月14日	企画運営会議 (みなかみ町役場)
10月16~17日	放送大学面接授業・上級編 (高原千葉村ほか)
10月17日	ムタコの日 (ムタコ沢)
10月20日	新治小学校6年生遠足 (三国峠)
10月24日	赤谷の森自然散策 (小出俣)
10月29日	千葉県自然観察指導員協議会研修 (高原千葉村ほか)
11月 3日	三国峠自然散策 (三国峠)
11月12~15日	イヌワシ特設調査 (赤谷の森全域)
11月17日	日本林道協会研修 (茂倉沢ほか)
11月20日	放送大学公開講座 (前橋市)
11月21日	林野庁職員勉強会 (いきもの村ほか)
11月25日	茂倉沢治山検討委員会 (さいたま市)
12月 2~3日	センサーカメラ斉回収調査 (赤谷の森全域)
12月 6日	みなかみ町との打合せ (みなかみ町役場)
12月10日	猛禽類講演会 (中越森林管理署)
12月11~12日	環境教育関東ミーティング (宇都宮市)
12月20日	みなかみ町との打合せ (みなかみ町役場)
1月15~16日	A Seed Japan視察 (いきもの村ほか)

○赤谷の日 (いきもの村ほか)

10月9日~11日、11月6日~7日、
12月4日~5日

○ホンドテンモニタリング調査 (赤谷の日以外の調査日、赤谷の森全域)

10月16日、17日、11月13日、19日
~25日 (連続調査)、12月11日、19日、1月15日

○猛禽類調査 (赤谷の森全域)

10月15日、11月5日、19日、25日、
12月1日、2日、7日、14日、18日~
20日、28日、1月7日、8日、12日、
20日、21日、24日、25日、26日、
29日

サポーター募集!!

赤谷プロジェクトの理念に共感し、その目標実現に向けてともに活動するプロジェクト・サポーター (ボランティア) を募っています。

○赤谷プロジェクト地域協議会定例会

10月11日、11月7日、12月5日、
1月20日

○各ワーキンググループ会議

植 生 管 理 : 1月14日
猛 禽 類 : 11月27日、1月30日
渓流環境復元 : 11月18日
環 境 教 育 : 10月23日、12月21日
(現地検討会)
ほ 乳 類 : 1月24日
フィールド利用 : 1月29日

「赤谷の森自然散策」 のお知らせ

申込先

赤谷森林環境保全ふれあいセンター
電話 0278(60)1272

●実施内容

冬の森林・冬芽・動物のフィールドサイン
実施日 / 平成23年2月20日(日)
場 所 / みなかみ町 旧猿ヶ京小学校、いきもの村

●参加資格 小学4年生以上 (小中学生は保護者同伴)
●参加費 無料 (先着30名)

●集合場所と時間

関東森林管理局(前橋市)9時出発 → 利根沼田森林管理署(沼田市)9時50分出発 → 終了時間15時30分(現地)

●服装など

自然散策が出来る服装 (帽子・防寒着・長靴・雨具)、
昼食、飲料

●募集締切 平成23年2月15日(火)

赤谷プロジェクトに望むこと

四代目 江戸家猫八

(動物ものまね演芸家)

私は親子代々のものまね芸に携わっております。

ウグイスの声を「ホーホケキョ!!」と鳴いてお客さまに喜んでいただいたり、近ごろはオオルリやキビタキの声などを披露して、先代までにはなかった森の雰囲気や舞台で醸し出したりしています。

そんな時、お客さまはみんな、そんなきれいな声で鳴く鳥がいるんだと感心したり、感動したりしてくれます。そして、皆さん自然のすばらしさを感じてくれるんです。

一昨年、私は「赤谷の森」を訪ねて、その自然の息吹にたくさん力をいただきました。

私達のまわりにある自然が、すべての生きものの命というものを支えてくれている。

その自然をいかに守っていくか、そこが問題です。

赤谷プロジェクトの皆さんの

こんにちは



すべての力を結集しての、その活動は、どんなにか自然のために力になっているか、本当にすばらしいことです。

誰もが自然の大切さはわかっています。でも、あまりにもさりげない自然の存在がゆえについに無頓着になってしまつて、私が舞台で鳥のさえずりをすると、みんなが自然を感じてくれる。そして、少なからず自分たちの身のまわりの自然に目を向けてくれます。

その源となる自然の森がなくなつてしまつたら、舞台の上の私も、それを聞いて下さるお客さまも、すべての存在がなくなつてしまつてしまう。

母なる大地を守って下さる赤谷プロジェクトの皆さまに、もう一度心よりお礼と、そして今後ますますのご活躍に激励のエールをお送りいたします。これからもどうぞがんばって下さい。

赤谷の森で落ち葉掃き

赤谷プロジェクトでは毎月、第一土曜・日曜日を「赤谷の日」と名づけ、サポーターの皆さんがさまざまな活動を行っています。

そのひとつとして、ヤマビルの被害を軽減するための実験を行ってきました。その結果、落ち葉を除去することで、ヤマビルの生息数が大幅に減少することがわかりました。

そこで、12月の「赤谷の日」において、サポーターや関係者で、相保地区内にある水管橋周辺の散策路で落ち葉掃きを行いました。

この取組みの効果がどの程度現れるかはわかりませんが、春になって被害がどの程度軽減されるか、皆さんも注目してください！



本誌や赤谷プロジェクトに関してのお問い合わせ先は、こちらへどうぞ！

赤谷プロジェクト地域協議会

代表幹事 林 泉
TEL.0278-66-0888
事務局長 安田 剛士
TEL.0278-22-2119
<http://blog.livedoor.jp/mutakosawa/>

(財)日本自然保護協会

プロジェクト担当 出島 誠一
TEL.03-3553-4107
<http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html>
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局 赤谷森林環境保全ふれあいセンター

所長 鈴木 綾子
TEL.0278-60-1272
http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス akaya_postmaster@rinya.maff.go.jp